

## 明石市指定有形文化財への指定について

令和5年3月27日付けで下記の2つの物件を明石市の指定有形文化財に指定しましたので、報告します。今回の指定により明石市指定文化財は41件から43件になります。

## 記

## ○対象文化財

(1) 名称 <sup>べざいせん</sup> 弁財船(イサバ) 模型

所在地 明石市二見町東二見 1323

所有者 御厨神社

時代 江戸時代(天保年間)

形状 全長 225.5 cm シキ長 136 cm 胴幅 64.5 cm

船首高さ 41 cm

船底裏に寄贈者名と奉納時期有

概要 天保6年(1835)6月に東二見村と西二見村の船持ちたちによって御厨神社に奉納された<sup>べざいせん</sup>弁財船(イサバ)模型である。船底裏側に奉納者や製作者の名および奉納時期が記されており、全体的に当時の形がよく伝えられている。

特に船首部分は残りが良く、ミヨシと<sup>うまのりたつ</sup>馬乗立の部分が二股になっており、ミヨシと<sup>うまのりたつ</sup>馬乗立の間には<sup>ぼりいた</sup>飾り彫板(梅等の模様)がついている。これは、大型<sup>せんごくぶね</sup>弁財船(千石船)にはない、全国でも数少ないイサバ型の模型で、絵馬、板図に書かれたものを裏付ける貴重な資料である。奉納年代も「天保六年(1835)六月」と相対的に古い。

このタイプの船は基本的に魚類や薪等の荷物を運んだ船であるが、大坂からの金毘羅参りの客も運んでいたと伝えられる。江戸時代の瀬戸内海の海上交通をとらえるうえで、文化財的価値が高い。

(2) 名称 中崎公会堂  
所在地 明石市相生町1丁目119番19  
所有者 明石市  
時代 明治時代  
形状 木造平屋建（桁行12間半、梁行8間）

平入り唐破風玄関付

いりもやさんがわらぶき  
入母屋棧瓦葺

建築面積 499.33 m<sup>2</sup>

概要 明治44年(1911)4月に、白砂青松の地である中崎遊園地に建てられた明石市内に残る最古の公共施設である。設計と監督は明石郡出身で当時奈良県技師であった加護谷祐太郎かごやゆうたろう氏が手掛けた。奈良・鎌倉時代の寺院建築様式を取り入れた建物で、小屋組に木造トラス構造を採用して大規模な大広間を構築している。玄関は唐破風の屋根をもち、角柱はエンタシスになっている。天井は二重折上格天井おりあげごうてんじょうであり、東面に床の間、違い棚、書院を設け、書院には装飾的な花頭窓かとうまどを設ける。

昭和57年(1982)に改修を行っているが、建築当時の姿に整備され、その後の阪神・淡路大震災でもほとんど被害がなく、現在に至っている。

明治44年(1911)8月13日の柿落しの講演会で、当時朝日新聞に勤めていた夏目漱石が講演をして以来、数々の著名人による講演会が開催され、現在では、市民の集会所や剣道・柔道などの武道場として広く市民に活用されている。

本建築は、明治36年(1903)に建てられた奈良県公会堂と共通するもので、加護谷氏がこれを範としたと見られ、この公会堂よりも後の大正元年(1912)に竣工した加東市明治館とも構造、意匠が共通している。

様々な時代の様式を巧みに組み合わせ、細部に意匠を凝らした本建築は、明治後半期を代表する近代和風建築として文化財的価値が高い。



中崎公会堂 全景



からはふ  
唐破風玄関

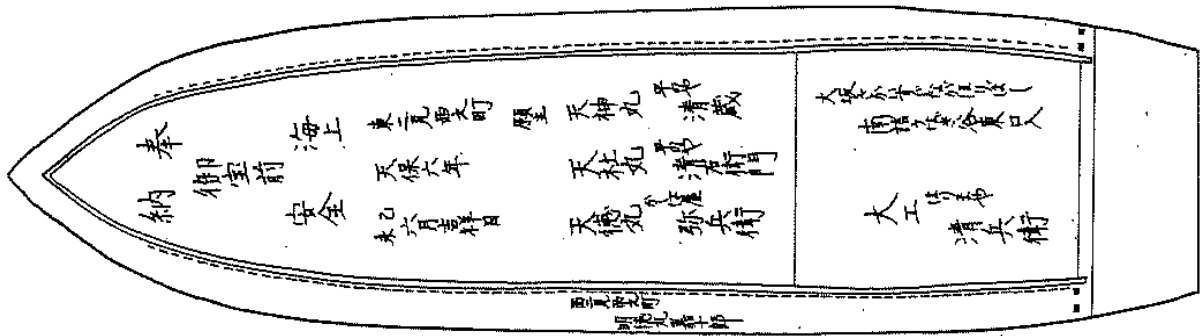
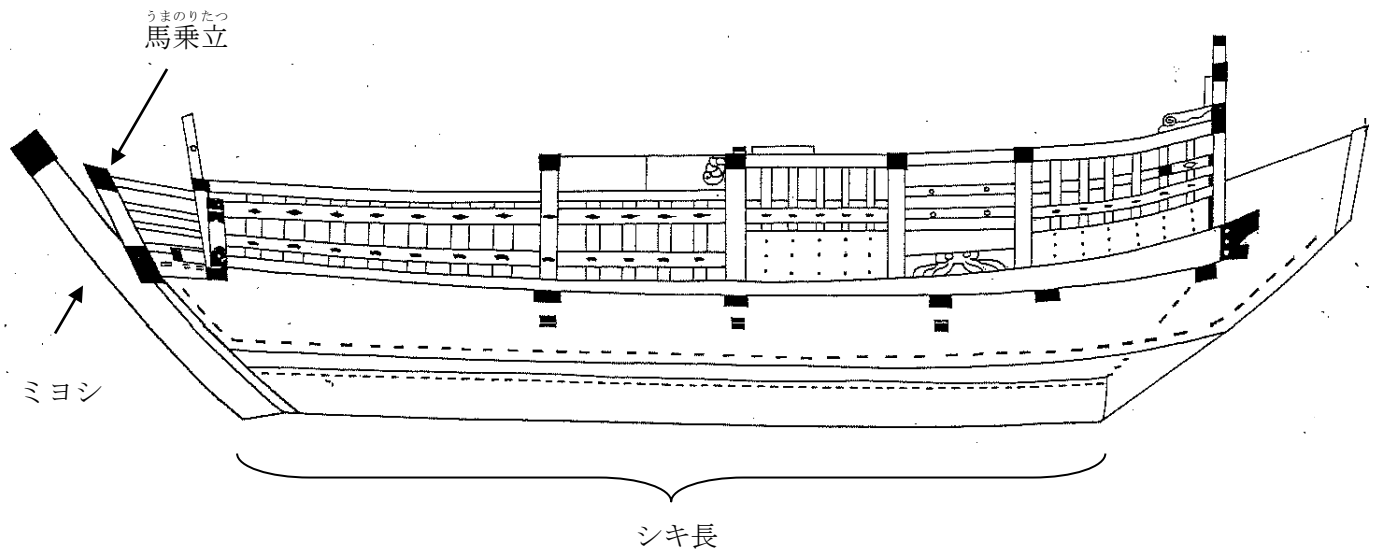
エンタシス  
(中間部から上部にかけて  
徐々に細くした形状の柱)



おりあげごうてんじょう  
二重折上格天井



弁財船模型 全景



船底刻字